

兵庫のイカ・タコ類 25 選

兵庫県には瀬戸内海側と日本海側で異なる環境の海域が広がっており、それぞれの環境に適応した様々な海洋生物が生息しています。開館 25 周年の記念展示では、兵庫県近海で見られるイカ・タコ類（軟体動物門頭足綱に属する生物）25選を実物標本（表紙、写真1）や生態写真とともに紹介します。

イカ・タコ類は無脊椎動物の中で最大級の脳神経系を持ち、知的能力が高く、行動がユニークで興味深い海洋生物です。「イカはしゃべるし、空も飛ぶ（著者：奥谷喬司）」のタイトルでよく知られた一般向けのイカ学入門書がありますが、実際にイカは体色を多彩に変化させて仲間同士でコミュニケーションを行い、漏斗からのジェット噴射で勢よく海面から飛び出して鰭と腕を広げて数十メートルを飛行することもできます。また、イカ・タコ類は私たちの食生活になじみ深い生物でもあります。みなさんは「タコ焼き」派か「イカ焼き」派、どちらでしょうか。好みのイカの種類や食べ方などがありますでしょうか。

兵庫県近海では 50 種類以上のイカ・タコ類が知られていますが、今回の「兵庫のイカ・タコ類25選」では、その中でも特に魅力的なイカやタコを厳選して展示します。イカの仲間では、石灰質の硬い甲をもつコウイカやウデボソコウイカ、生時に美しい体色を見せるハナイカ、世界最小の頭足類と言われるヒメイカ、レジャーフィッシングの対象としても人気が高いアオリイカやケンサキイカ、発光するイカとしてよく知られているホタルイカ、中層・深海性で謎の多いユウレイイカなどを紹介します。タコの仲間は、明石ダコのブランド名もあるマダコ、タコ壺漁で古くから文化的にも親しまれているイイダコ、長い腕が特徴のテナガダコ、最大で全長が 3m にも達するミズダコ、猛毒のテトロドトキシン

（フグ毒）をもつヒョウモンダコ、美しい貝殻の中に入って遊泳するアオイガイやタコブネなどです。「兵庫のイカ・タコ類 25 選」の記念展示をぜひご覧いただき、兵庫県近海の多様な海洋生物の魅力を感じていただけたらと思います。

和田年史（自然・環境マネジメント研究部）

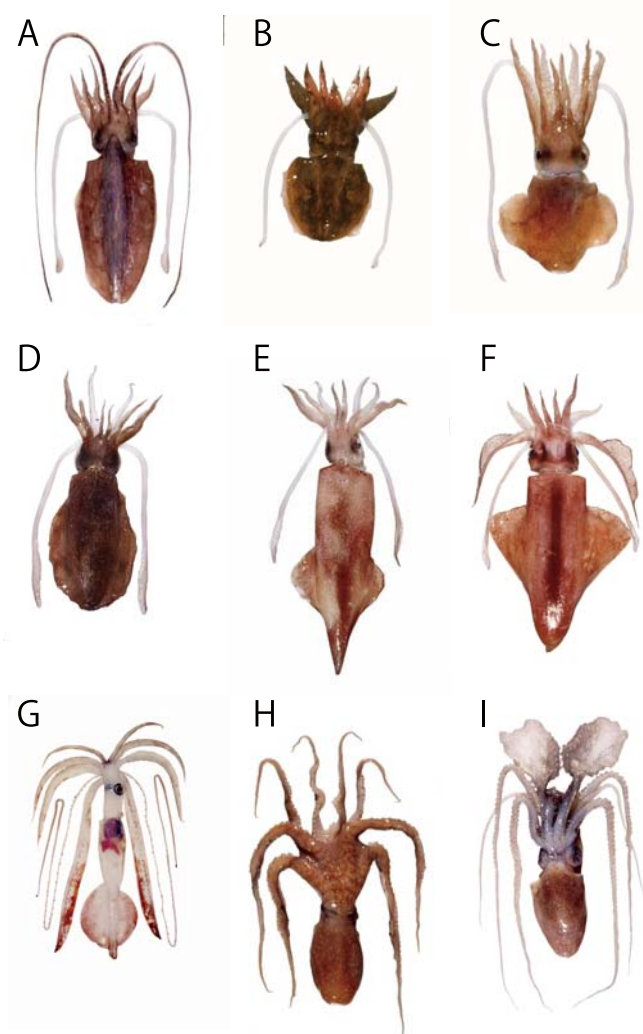


写真1 兵庫県近海で見られるイカ・タコ類の標本
A ウスベニコウイカ；B ハナイカ；C ボウズイカ
D アオリイカ；E ケンサキイカ；F ソデイカ
G ユウレイイカ；H クモダコ；I アオイガイ

*標本写真は上下が逆になっていると思われるかもしれませんが、イカ・タコ類では両眼のある部分が頭で、筒状の細長い部分が胴体です。そのため、他の多くの生物と同じように、頭を上、胴体を下にして表現します。

ひとはくは今年開館 25 周年を迎えます。25 周年にちなんで各テーマごとにこだわりの 25 点の資料を厳選しました。18 のテーマの展示を 4 期にわたって開催します。ここではこのうちの 3 つのテーマをご紹介します。

会期 初夏の部：平成 29 年 6 月 3 日～平成 29 年 7 月 2 日
夏の部：平成 29 年 7 月 15 日～平成 29 年 9 月 10 日
秋の部：平成 29 年 10 月 7 日～平成 30 年 1 月 8 日
冬の部：平成 30 年 2 月 11 日～平成 30 年 3 月 25 日

これってアリ？ アリに化けるクモ写真 25 選

触角をふりながら歩き回る姿はアリそっくりなのに、近づくと、ジャンプしていなくなってしまう変な虫（表紙）。こんな虫を見たことはありませんか。よく見ると、触角のように動かしていたのは 2 本の足で、この前足をふくめて足は全部で 8 本もあります。足が 6 本ではなく、8 本あるのはクモのなかまです。その正体はハエトリグモの仲間がアリに化けているのです。このクモはアリに化けているのでアリグモと呼ばれています。アリグモは日本全土で 5 種ほどいますが、熱帯の森に行くと、一つの森から 40 種を超えるアリグモを見つけることができます。日本のアリグモは黒くて同じような形をしていますが、熱帯の森では、まるで針金のように細長いものや、金色の体毛を生やしているものなど、いろいろなアリグモが見つかります（写真1）。どうして、熱帯の森ではアリグモは多種多様になるのでしょうか。これが、今、私が研究で解き明かそうとしている謎です。実は、私はアリの専門家です。もう 30 年近く、熱帯の森でアリの調査を行ってきましたが、ここ 10 年は、せっせとアリグモを採集し、同じ森に棲むアリの多様性との関係を調べています。

集めたアリグモのほとんどは、まだ名前もついていない、新発見のものばかりです。今回、私のアリ

グモのコレクションを本邦初で紹介したいと思えます。残念ながら、クモの体は軟弱で、アルコールに浸かった標本でしか保存できません。このため、その形や色が失われてしまいます。そこで、私が撮影した生体の写真を使って、アリグモの見事な化けっぷりを展示します。熱帯の森で繰り広げられるアリに化けるクモたちの仮装大会を見に、是非、ご来館ください。

橋本佳明（自然・環境評価研究部）



写真1 ボルネオ島のランビルの森で見つけたアリに化けるクモたち。一匹だけアリが混じっていますが、どれか分かりますか？（答えは、4 ページ右下です）

顕栄標本コレクションのお宝標本

顕栄標本コレクションは 2012 年に博物館に寄贈された、25 万点からなる一大植物標本コレクションです。中にはいろんなエピソードを持つ標本があります。写真1右は、112 年ぶりに兵庫県から見つかったマヤランの標本です。マヤランは 1879 年に摩耶山で採集されて東大へ送られました。その後牧野富太郎が調べて、最も記録の古い標本の産地摩耶山の名をとりマヤランという和名を与えました。ですがそれ以降、県内から採集されたことはありませんでした。

1991 年、福岡誠行 顕栄短大教授（当時）は、上郡町で実をつけたランを採集しました。持ち帰

って収蔵庫の標本と突き合わせて同定した結果、マヤランと判明しました。

高野温子（自然・環境評価研究部）



写真1 マヤラン（左：生体 右：実の標本）